

上条

報告

第89号

平成28年10月

甲州市教育委員会

☎32 - 5076

甲斐金山遺跡・黒川金山

第一弾

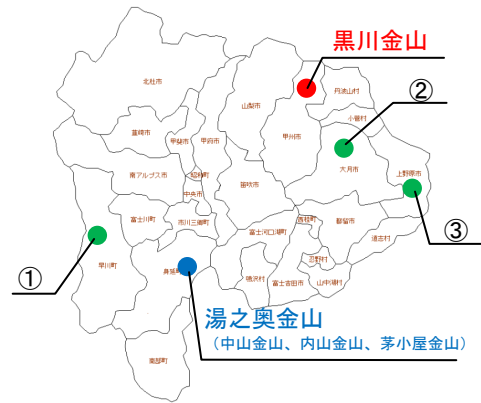
日本列島は地殻変動の大きい場所なので、多種の鉱産資源の産出があります。金や銀の産出量は世界でも上位の時期があり、戦国時代や江戸時代には各地の大名が採掘を行いました。金山といえば佐渡金銀山（新潟県）が有名ですが、この金山は、江戸時代、日本最大の金銀山として世界有数の産出量を誇り、江戸幕府の財政を支えました。現在、世界遺産登録に向けて取り組みを進めています。世界遺産に登録された鉱山としては島根県の石見銀山（平成十九年登録）が有名です。

山梨県で確認されている金山遺跡も多くあり、丹波山、大月、上野原にあるほか、身延町湯之奥の中山金山と塩山上萩原の黒川金山は「甲斐金山遺跡」として国の史跡（平成九年）に指定されています。黒川金山では昭和六十一年から平成元年まで黒川金山遺跡研究会による調査が行われ、黒川金山の歴史や金山経営の形態、操業の様子やその歴史が報告書にまとめられました。

戦国時代、武田家の軍資金を支えたとされる黒川金山。不定期になりますが、少しずつご紹介していきたいと思います。今回はその第一弾。黒川金山の歴史とそこで産出した金についてご紹介します。

黒川金山

【山梨県内の金山遺跡】



- ①早川町の諸金山遺跡
- ②大月市金山金山
- ③上野原市金山金山

【黒川金山について】

黒川金山は鉱山だけが孤立して存在していたのではなく、その周辺のさまざまな活動の場と緊密な関連をもっています。

また、現地を散策すると遺構や遺物を現在でも確認できることに加え、周辺には黒川金山に関する伝説・伝承などが多く、武田家との深い関わりをもつ金山としても人々の興味を引く存在です。



坑口（昭和六十一年調査時）



鶏冠神社奥宮



出土品



黒川千軒のテラス

●黒川金山のはじまり

黒川金山の金山としての操業開始がいつなのかは定かではありませんが、十五世紀末の記録に最も古い甲斐の金山の記述があり、これが黒川金山のことであれば少なくとも十五世紀末には操業されていたことになります。また、戦国時代のはるか前から砂金採集という小規模な行為が黒川金山で行われていた可能性が指摘されています。

鎌倉時代の甲斐源氏一門のうち安田義定は塩山に領地をもっていました。それは黒川金山の産金に関係しているのではないかとの説もあります。下小田原の福蔵院は安田義定の居館跡であるとの伝承とも合致します。

●黒川金山の栄枯盛衰

黒川金山は、十六世紀の前半に本格的な採掘が始まり、急速にピークを迎えましたが、十六世紀の末までには衰退していききました。一般に「武田信虎の代に始まり、信玄の代に最盛期を向かえ、勝頼の代に閉山した」といわれていますが、黒川金山と武田家の衰退は確かによくリンクしています。

十六世紀末に衰退を迎えた黒川金山ですが、その後も黒川金山に注目する者が現れ、江戸時代には石和代官へ採掘願いが度々出されています。近代に入り明治三年に試掘を認められた者がいましたが、鉱脈に当ることができず、明治三十九年には東京のある人物が黒川金山株式会社を設立し、近代的な設備を導入して採掘を始めましたが、採算が取れず二年後には廃業しました。このように黒川金山の風評は絶えず、金山再興の願いが根強い様子が伺えますが、明治四十五年に東京市（現在の東京都）の水道水源林となり、東京市の管理地となつてからはそれも不可能となっています。

明治になってからも黒川金山で金の採掘が試みられていたとは驚きです！上条や平沢に金を掘った坑道跡があると聞いています。地元の方は「金穴」と言ったそうです。



近代の坑道跡

日本最大の金山である佐渡金銀山は平成元年に閉山し、ほかに日本各地に金山がありました。その多くは掘り尽くされてしまいました。そんななか、鹿児島県にある菱刈鉱山は商業規模で操業が行われる国内唯一の鉱山で、現在でも年間約七トンの金を産出しています。

●黒川金山の金

黒川金山で使用されていた製錬のための道具は原始的な道具が大半を占めています。それでも「武田家の軍資金を支えた」と称されるのは、金の採掘量が多かったことと、金そのものの純度が高かったためと考えられます（黒川金山の金粒の含有比率は金八十六%、銀十四%と、非常に純度が高い）。

さらに興味深いことに、黒川金山から産出された金は、武田家の親族衆である勝沼氏の館（勝沼町にある勝沼氏館跡（註））に運ばれ、同じ重さに鑄造されていたことが調査・分析によりわかりました。勝沼氏館跡で出土した土器を近年分析したところ、一部に金粒が付着しており、その金粒の金・銀の比率や金の成分分析により、勝沼氏館跡の金が黒川金山で産出したものであることが判明したのです。黒川金山と勝沼氏館跡の間である東山（塩山地域の東側の山）には、金を運んだとの伝承があります。これを裏付ける証拠のひとつとなるものとして重要です。

（註）勝沼氏館跡は、武田信虎（信玄の父）の弟信友の居館で国史跡に指定されています。



土器に付着する金粒

九月のどきや

【南アルプス市郷土研究部の上条見学】

九月十二日に南アルプス市の白根地区郷土研究部の皆様約四十名が上条へ見学にいっしやいました。地区内を歩き、上条の歴史や伝建選定の取組みなどについて説明させていただきました。



【第九回上条集落見学会】

九月二十五日に九回の上条集落見学会を開催しました。市内外より十五名の参加をいただき、集落内を散策していただきました。

